

2022 年度  
東京大学大学院情報学環  
教育部シラバス

## 特別講義Ⅱ（教育部概論）

上條 俊介 准教授、関谷 直也 准教授、戸矢 理衣奈 准教授  
越塚 登 教授、上村 鋼平 特任講師、山名 淳 教授

S1S2 ターム 水曜5限（2単位） 時間割コード：5A701002

### 授業の目標・概要

情報学環の学際情報学府教員によるオムニバス講義である。

まず、ユニークな特性を持つ教育部というプログラムの歴史を跡づけ、そこで研究生になるということの意義を確認する。

そのうえで、情報学環を構成する多様な研究者が、おおむね2回ずつそれぞれの専門領域について概説する。なお、下記には学際情報学府における各研究者の所属コースが記されているが、講義のなかでコース全体の概説するわけではなく、あくまで各自の専門領域についての講義となる。

情報学環、および教育部の全体像を理解してもらうために2013年度にはじめて開講された授業。1年生はなるべく履修してほしい。

### 教科書・参考書

なし

### 授業計画

第1週	4/6	予備日
第2週	4/13	関谷 直也（社会情報学コース）
第3週	4/20	関谷 直也（社会情報学コース）
第4週	4/27	越塚 登（総合分析情報学コース）
第5週	5/10	越塚 登（総合分析情報学コース）
第6週	5/18	戸矢 理衣奈（先端表現情報学コース）
第7週	5/25	戸矢 理衣奈（先端表現情報学コース）
第8週	6/1	上村 鋼平（生物統計情報学コース）
第9週	6/8	上村 鋼平（生物統計情報学コース）
第10週	6/15	予備日
第11週	6/22	山名 淳（文化・人間情報学コース）
第12週	6/29	山名 淳（文化・人間情報学コース）
第13週	7/6	予備日
第14週	7/13	予備日

## 情報産業論講義Ⅹ

(情報産業を駆動させる「広告」の、コミュニケーションとしての本質を探ります。)

植村 祐嗣 講師  
(株式会社 電通)

S1S2 ターム 月曜5限(2単位) 時間割コード: 5A201010

### 授業の目標・概要

「広告」とは、広告主からの一方的な宣伝行為ではなく、企業と消費者との相互コミュニケーションとなっていなければ機能しません。

また「広告」とは、市場経済やマーケティングの潤滑油であり、新旧メディアやプラットフォーム経営の源泉であり、同時に貧富の差なくジャーナリズムやエンタテインメントを大衆に届ける役割を果たしています。

そのような「広告」の役割の本質に着目することで、そもそもコミュニケーションとはどうあるべきかを広く考察し、各自の人生観に活かしてもらいます。

### 教科書

なし

### 参考書

日本インタラクティブ広告協会 (JIAA) 編著「必携 インターネット広告」(2019 インプレス)

### 授業計画

- 第1週 前提: 大学とは何か、実社会とは何か
- 第2週 概論: コミュニケーションとは何か
- 第3週 「I love you」は伝わるのか=価値提供
- 第4週 選ばれるために足りないこと=差別化
- 第5週 相手を知り、己を知る=相性
- 第6週 広告とは何か、広告の「7W1H」
- 第7週 企業経営における広告・販促・広報・PR
- 第8週 広告業界、広告ビジネス
- 第9週 GAF A等の広告(関連)戦略
- 第10週 法律・行政指導=業界自主規制=企業倫理
- 第11週 ネット広告のダークサイド
- 第12週 そもそもメディアとは何か
- 第13週 補遺、質疑応答

# 情報技術論講義IX

(ヒューマンコンピュータインタラクション概論)

濱田 健夫 特任講師 ・ ハウタサーリ アリ 特任准教授

S1S2 ターム 火曜5限(2単位) 時間割コード: 5A401009

## 授業の目標・概要

我々はテクノロジーに囲まれ日々の生活を便利に過ごすことができているが、テクノロジーを利用するためにはユーザとの間を取り持つインタフェースが不可欠である。ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) はインタフェースを介してどのようにコンピュータと関わり利用するかについて焦点を当てた学際的学問分野である。この分野の研究成果を知ることでテクノロジーのデザイン手法を学ぶことができる。本講義では HCI に関する幅広い研究トピックスを交えてデザイン原理や方法論について紹介するとともに、バーチャルリアリティ (VR) 技術を使ったグループワークを通して、インタラクションデザインの実習を行う。

## 教科書

必要があれば適宜指示する。

## 参考書

『The Design of Everyday Things』, Don Norman

『オーグメンテッド・ヒューマン』, 暦本 純一

『VR は脳をどう変えるか? 仮想現実の心理学』, Jeremy Bailenson

## 授業計画

- 第1週 (4/5) オープニング, History of HCI
- 第2週 (4/19) User Interface / Experience / Interaction Design (UI / UX)
- 第3週 (4/26) Computer-Mediated Communication (CMC) and Affective Computing
- 第4週 (4/28) Augmented / Virtual / Mixed Reality (AR / VR / MR)
- 第5週 (5/10) Computer-Supported Cooperative Work (CSCW) and Social Media
- 第6週 (5/17) Human Augmentation / Cyborg / Wearable Computing
- 第7週 (5/24) Artificial Intelligence (AI) and Internet of Things (IoT) in HCI
- 第8週 (5/31) HCI Methodology (ゲストスピーカー)
- 第9週 (6/7) 【対面形式】 アイデア出し, チームビルディング (グループワーク)
- 第10週 (6/14) Interaction Design in VR (講義、グループワーク)
- 第11週 (6/21) Designing with VR (グループワーク)
- 第12週 (6/28) Designing in VR (グループワーク)
- 第13週 (7/5) Designing for VR (グループワーク)
- 第14週 (7/12) 【対面形式】 最終発表会 (グループワーク)

## 情報技術論実験実習Ⅱ

(東京大学制作展)

苗村 健 教授

通年 水曜4限(4単位) 時間割コード: 5A404002

### 授業の目標・概要

メディアやコンテンツの研究に取り組む学生を対象として、通年で開講する。7月と11月に展示会を開催するために、さまざまな表現手法を学び、それぞれが作品を制作する。また、受講者は企画や運営上の役割を担い、ディスカッションを通して展示全般のプロセスを実践する。最終的には、活動の概要をまとめたアーカイブ冊子を刊行する。

### 教科書・参考書

なし

### 授業計画

- 4月 役割分担・7月展示(Extra)に向けたコンセプト確定
- 5月 Extraの広報発信・作品制作
- 6月 Extraの運営準備・作品制作
- 7月 Extra開催
- 8月 オープンキャンパス出展・11月展示(制作展)に向けたコンセプト確定・作品制作
- 9月 作品制作
- 10月 制作展の広報発信・運営準備・作品制作
- 11月 制作展開催
- 12月 アーカイブ冊子の製作
- 1月 アーカイブ冊子の完成

# 情報社会論文献講読V

(感情とメディア)

小田中 悠 助教

S1S2 ターム 水曜6限(2単位) 時間割コード: 5A302005

## 授業の目標・概要

近年、社会科学において、人々の行動に影響を与える要因として、感情が注目されている。たとえば、社会運動の研究においては、人々が快・不快の感情を抱くことと、社会問題の解決を目指す運動に参加することとの関係や、災害時の行動と感情との関係が議論されている。

そうした人々の感情に影響を与えるものの一つにマスメディアによる報道や、ソーシャルメディアを介した相互的な情報のやりとりがある。そして、コンピュータ技術の進展により、メディアに現れる感情を記事や投稿といったテキストデータから数量的に分析する方法(テキストマイニング)が登場した。

そこで、本講義では、書籍や論文等の講読を通して、メディアの役割についての基礎的な議論や、感情という心理学的に思えるものを(社会学を中心に)社会科学的に扱う議論、そして、テキストデータにおける感情をコンピュータを用いて分析する方法を習得し、関連する事柄を自ら考えられるようになることを目指す。

## 教科書・参考書

その都度指定する。

## 授業計画

第1回 イントロダクション

第2回 メディア論に関する文献講読・ディスカッション (1)

第3回 メディア論に関する文献講読・ディスカッション (2)

第4回 メディア論に関する文献講読・ディスカッション (3)

第5回 第4回までのまとめ

第6回 社会科学的感情論に関する文献講読・ディスカッション (1)

第7回 社会科学的感情論に関する文献講読・ディスカッション (2)

第8回 社会科学的感情論に関する文献講読・ディスカッション (3)

第9回 第8回までのまとめ

第10回 感情のテキストマイニングに関する文献講読・ディスカッション (1)

第11回 感情のテキストマイニングに関する文献講読・ディスカッション (2)

第12回 感情のテキストマイニングに関する文献講読・ディスカッション (3)

第13回 感情のテキストマイニングに関する文献講読・ディスカッション (4)

第14回 感情のテキストマイニングに関する文献講読・ディスカッション (5)

第15回 全体のまとめ

ただし、受講者の関心や進度によって変更になることがある。

## 情報社会論講義Ⅷ

(プラットフォーム論～市民、メディア、国家は巨大テック企業とどう向き合えばいいのか?)

西村 陽一 講師

(情報学環客員教授/元朝日新聞社常務取締役/  
元ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン代表取締役)

S1S2 ターム 木曜 5 限 (2 単位) 時間割コード: 5A301008

### 授業の目標・概要

記者として米国・ロシア、中国で勤務した後、朝日新聞社の役員と日米合弁のネットメディア「ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン」の代表取締役を務めた実体験も踏まえて、GAFAM (グーグル、アップル、フェイスブック=メタ、アマゾン、マイクロソフト) に代表される巨大プラットフォームについて、様々な角度から考えていきたいと思えます。彼らはいまや、皆さんの日常生活から人間関係に至るまで不可欠の存在となっています。デジタル空間においては時に政府をも凌駕する絶大なパワーを持ち、国際的にも、米中対立、米大統領選挙、さらにはウクライナ戦争もその存在抜きには語れない時代を迎えています。だからこそ、「市民・読者・ユーザー」「ジャーナリズム」「国家」という層に分けてそれぞれのプラットフォームとの関係を考えてるとともに、「日常生活」「選挙」「紛争、戦争」といった局面に応じて彼らが果たしている役割を見つめることで、その本質とは何か、立ち止まって見直す必要があると思えます。講義では、なるべく具体的な事例を紹介するとともに、日本の Yahoo や LINE、中国のアリババやテンセント、新興勢力の NETFLIX、最近話題のメタバースなどにも触れる予定です。

### 教科書

とくにありません。

### 参考書

『GAFAM next stage ガーファ ネクストステージ—四騎士+Xの次なる支配戦略』 スコット・ギャロウェイ 東洋経済新報社

『監視資本主義—人類の未来を賭けた闘い』 ショシャナ・ズボフ 東洋経済新報社

『マインドハッキング—あなたの感情を支配し行動を操るソーシャルメディア—』 クリストファー・ワイリー 新潮社

これらを含む関連書籍の内容は講義の中でその都度紹介します。。

### 授業計画

第1週 ガイダンス、日本と世界のメディアをとりまく現状と展望

第2週 プラットフォーマー概論

第3週 米大統領選挙、ウクライナ戦争などとプラットフォーム

第4週 逆風のフェイスブック～フェイスブックペーパーズを読む

第5週 国家 VS プラットフォーマー①

第6週 国家 VS プラットフォーマー②

第7週 ジャーナリズムとプラットフォーム①

第8週 ジャーナリズムとプラットフォーム②

第9週 市民・ユーザー、民主主義とプラットフォーム～「監視資本主義」とは？

第10週 国際政治、地政学とプラットフォーム

第11週 個人情報保護、プライバシー、データ主権

第12週 中国のデジタル権威主義

第13章 フェイクニュース、インフォデミック、メディアリテラシー

第14週 ディスカッションとまとめ

ゲストなどを招いた場合は日程を変更する可能性があります。



## メディア・ジャーナリズム論研究指導Ⅳ

(災害情報・調査法：東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・研究)

関谷 直也 准教授

通年 集中（4単位） 時間割コード：5A103004

### 授業の目標・概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から 11 年が過ぎました。この震災、原子力事故の被害、復興の課題、困難をどのように伝えていくか、これは非常に大きな課題です。

ジャーナリズムを学ぶみなさんにとっても、この課題は今後数十年続いていくことになり、現在の 10 年の課題を理解しておくことは、また①福島原発事故や東日本大震災の教訓をどう伝え、今も残る課題にどう対処すべきか、②今後の災害や危機を考える上で基礎として、③さかのぼって広島・長崎の原爆、沖縄問題などをどう考えていくべきかを考える契機にもなる非常に重要なタイミングだと考えています。

この演習では、夏休みの 3 日間に東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館、東日本大震災・原子力災害伝承館、浪江町の諸施設を訪れ、「災害を伝承していくこと」「災害をコミュニケーションしていくこと」を考えてもらいます。

前提知識は必要としませんが、研究指導ですので本テーマに関心・興味があることを前提とします。

### 教科書・参考書

授業中に指示

### 授業計画

下記、(1) ガイダンス、(2) 現地フィールドワーク全日程に参加することを条件とする。

#### (1) ガイダンス 1

未定

#### (2) 現地フィールドワーク及び講義

未定・1 日目 東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館見学など

未定・2 日目 東日本大震災・原子力災害伝承館、浪江町の諸施設見学など

未定・3 日目 講話など、

#### (3) 報告会

未定 ※受講生と相談の上決定

# 情報社会論実験実習 V

(テクノロジーを活かしたコンテンツ・ユーザ体験のデザイン)

渡邊 英徳 教授

A2 ターム 月曜 4・5 限 (4 単位) 時間割コード : 5A304005

## 授業の目標・概要

本講義では、私たちの身の回りに浸透しつつあるテクノロジーを活かしたコンテンツ・ユーザ体験のデザインについて、グループワークによる実践を通して考えます。

VR・AR などの、かつて先鋭的だったテクノロジーは、徐々に社会に浸透し、コモディティ化しつつあります。例えば、デジタルアースを使って地球の裏側の街を探索したり、スマートフォンカメラに映し出された AR 空間にモンスターを探すといった経験は、私たちにとって、すでに日常的なものになっています。

こうしたコンテンツを、「ユーザ」としてただ利用するだけではなく、独自の視点をもつ「クリエイター」として、新たなプロダクトをつくりだすことによって、テクノロジーが人と社会に与える影響について、より深く考え、投企することができるはずです。

本講義では、テクノロジーを活かしたコンテンツの中でも、特に「デジタルアーカイブ」のデザインに、それぞれグループで取り組みます。

## 教科書

特になし

## 参考書

渡邊英徳：「データを紡いで社会につなぐ」，講談社，2013 年

## 授業計画

授業期間中に、2 つのデジタルアーカイブ制作課題に取り組む予定です。履修者のスキルに合わせて、課題の内容を決定します。

# 情報産業論実験実習VI

(出版・メディアビジネスと編集者の近未来)

谷口 優 講師  
(株式会社宣伝会議)

A1 ターム 月曜5・6限(4単位) 時間割コード: 5A204006

## 授業の目標・概要

出版市場に目を向けると、その市場は縮小傾向にあります。しかし、出版の中でも特に「雑誌」に着目すると「読者から販売収入を得る」以外の新たなビジネスモデルが国内外で次々と生まれています。本講義では、最前線の出版ビジネスの動向を探求しながら、そこにおける「編集者」の仕事の近未来について考えていきます。編集企画の立案・取材・執筆の実技も実施します。希望される人は、講師がサポートしながら、宣伝会議が刊行するメディアでの記事掲載までチャレンジしています。

また講義名(サブタイトル)で「出版」と銘打ってはいますが、講師がマーケティング専門誌の編集長をしていることから、雑誌の「編集者」としての視座に加え、担当メディアの専門領域である、広告・メディアビジネスについても、テレビ、ラジオ、新聞、さらにWebメディアと幅広く扱う予定です。

この講義では、講師から出版・メディアビジネス・編集者の近未来の在り方についての「仮説」を皆さんに提示していきますので、その仮説について、皆さんなりの考えをディスカッションを通じて発表してもらいたいと考えています。そして、講義を通じて、出版・メディアビジネス・編集者の近未来の在り方について、「自分なりの仮説」を持ってもらうことを到達目標としています。

決してひとつの正解しかないものではなく、一人一人が自分なりの仮説を構築してくれることを支援するような講義にできればと思います。

## 教科書

特にありません

## 参考書

可能であれば、講師が編集長を務める月刊『宣伝会議』に目を通しておいてほしいです。それ以外、講義の流れで紹介するに至った、講師が編集にかかわった出版物を提示しておきます。

『雑誌広告2.0』(宣伝会議刊)、『The Art of Marketing—マーケティングの技法』(宣伝会議刊)、『広告ビジネスは変わるか?—メディア、マーケティング、テクノロジーのこれから』(宣伝会議刊)。

## 授業計画

### 【①座学+ディスカッション】

1. オリエンテーション(講義の方針/講師が携わる仕事内容についての紹介)
2. 日本のメディアビジネスを取り巻く今日的課題(マーケティング/広告ビジネスの観点から)
3. 国内外の出版社・新聞社における新たなビジネスモデル研究
4. 企業のマーケティング戦略の変化とメディア企業の新たなビジネス
5. 消費者の情報収集行動を踏まえたメディア進化
6. 編集者の仕事研究(書籍/雑誌/Webメディア)

7. 企業とコンテンツメーカーの新しい関わり（変化する編集者の仕事、編集力が生きる新たな場）
8. 出版ビジネスにおける新しいマネタイズ方法（雑誌メディアの特性から考える）

【②ワークショップ+実技】

- 9～10. 編集コンテンツ制作ワークショップ① 編集会議（アイデア発想）
- 11～12. 編集コンテンツ制作ワークショップ② 編集会議（構成案作成）
13. 編集コンテンツ制作ワークショップ③ 取材の実務
14. 編集コンテンツ制作ワークショップ④ 記事執筆の仕方
15. 編集コンテンツ制作ワークショップ⑤ デザイン・レイアウト・文字校正

※本講義では上記の①と②のスタイルの異なる講義を交互に行うなど、なるべく組み合わせながら講義を作成、実施する予定です（前半が座学だけ、講義の進行状況によりですが後半が実技だけにはならないようにバランスを考えて実施しますが、その時々講義の進み具合、履修生の方の要望に合わせて詳細は変更になる可能性もあります）。

## 情報技術論講義Ⅹ

(社会インフラを支えるサイバーフィジカルシステム)

片岡 欣夫 講師  
(株式会社東芝)

A1A2 ターム 火曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A401010

### 授業の目標・概要

ライフラインや産業を支える社会インフラは昨今、IoT 技術の活用により、サイバー空間と連携して分析や制御を行うサイバーフィジカルシステム(CPS)化が進んでいる。本講義では、これら社会インフラが抱える課題、CPS による解決の取り組み、具体的な事例や注目される最新技術を紹介する。さらに受講者との議論を通じ、より安心・安全で快適な人々の社会生活を目指すためにどのような技術を実現していくべきかを考える。受講を通じ、社会インフラ向けの CPS 技術に馴染んで頂く。

### 教科書

なし

### 参考書

島田太郎, 他, "スケールフリーネットワーク ものづくり日本だからできる DX," 日経 BP 社(2021)

福本勲, 他, "デジタルファースト・ソサエティ 一価値を共創するプラットフォーム・エコシステムー," 日刊工業新聞社(2019 年)

### 授業計画

- 第 1 週 : 【概要】社会インフラと CPS ①
- 第 2 週 : 【概要】社会インフラと CPS ②
- 第 3 週 : 【社会展開例】CPS 応用事例①
- 第 4 週 : 【関連技術】通信・ネットワーク①
- 第 5 週 : 【関連技術】AI ①
- 第 6 週 : 【関連技術】デバイス①
- 第 7 週 : 【討議】CPS を用いたインフラサービスの検討①
- 第 8 週 : 【社会展開例】CPS 応用事例②
- 第 9 週 : 【関連技術】通信・ネットワーク②
- 第 10 週 : 【関連技術】デバイス②
- 第 11 週 : 【関連技術】AI ②
- 第 12 週 : 【討議】CPS を用いたインフラサービスの検討②
- 第 13 週 : 【クロージング】講義まとめ

## 情報社会論講義Ⅶ

(～メディアや現場を「編集」する～)

森 禎行 講師  
(ヤフー株式会社)

A1A2 ターム 水曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A301007

### 授業の目標・概要

◆ヤフーやスマートニュースなどネットメディアの最新の動きや、「学生が最も行くべき先進地」と考える「福島」での動向を主な題材に、これからの「情報社会」を考え、実践します。

◆講師は、毎日新聞記者と Yahoo!ニュース編集という新聞とネットメディアの2つのメディアを経験。E コマース企画営業などを経て、今は関係人口創出にも従事しています。これら知見を踏まえ、「誰もが編集者」の時代において、ネットメディア（オンライン）と地域（オフライン）の双方を重視した、「発見」「伝え方」を考察します。

◆二大テーマの一つが、近年のメディアで大きな役割を持つ、ヤフーやスマートニュースなどネットメディアの取り組みを学ぶことです。

◆もう一つが、福島という「先進地」での取り組みを、メディア・編集視点で学ぶことです。メディアは、「知る」先の「アクション」が大切です。コロナ感染防止に配慮しながら、地域に関わる「しかけ」を提案します。

具体的には、以下を予定しています（変更の可能性あり）

①畑などでの青空レストラン「フードキャンプ」を活用したフィールドワーク（11 月や 2 月など）

②「最先端のまち」で始まった、大学生など 20 代以下限定の人材育成と起業プログラムのプロジェクト

◆授業は、本郷での対面を基本としますが、ハイブリッド講義を予定。福島からのオンライン講義も予定し、希望者は、個別に訪問同行しての講義出席や現場体験が可能です。オンラインとオフラインで、メディアや地域を編集する楽しさを体感したい、積極的な学生をお待ちしています。

### 教科書

特になし（授業中に随時紹介）

### 参考書

・ The Food Camp～ふくしまからはじまる、おいしい革命～

<https://izumigamori.stores.jp/items/60cad894933e9b7a010916b2>

### 授業計画

(変更の可能性あり)

第 1 週 : オリエンテーション (講義の方針/フィールドワークの説明など)

<ネットメディアを編集する①>

第2週：ネットメディアを編集する（1）～Yahoo!ニュースの「中の人」

第3週：ネットメディアを編集する（2）～SmartNewsの取り組み

<地域を編集する～食はメディア>

第4週：食はメディア（1）～「フードキャンプ」の魅力1。そして高校生が編集し続ける食雑誌

第5週：食はメディア（2）～「フードキャンプ」の魅力2。畑から五感で伝わる本質

<ネットメディアを編集する②>

第6週：ネットメディアを編集する（3）～株式会社ニュースピックスの取り組み

第7週：ネットメディアを編集する（4）～Twitter Japan 株式会社の取り組み

第8週：ネットメディアを編集する（5）～経済ネットメディアの取り組み（予定）

<地域を編集する～「最先端のまち」での実践>

第9週：「最先端のまち」を編集する（1）～日本随一の「挑戦フロンティア」

第10週：「最先端のまち」を編集する（2）～「住民ゼロ」のまちに、若者が起業で集う

第11週：「最先端のまち」を編集する（3）～関係人口を編集する

第12週：「最先端のまち」を編集する（4）～「まちメディア」

第13週：まとめ

# メディア・ジャーナリズム論講義Ⅱ

(もうひとつのジャーナリズムを求めて)

河原 理子 講師

(元朝日新聞社)

A1A2 ターム 木曜4限(2単位) 時間割コード: 5A101002

## 授業の目標・概要

2020年まで朝日新聞記者をしてきた講師と一緒に、「共感的理解」を手がかりに、ジャーナリズムの果たすべき役割を考えます。苦境にある人たちのことを伝えるのも、ジャーナリズムの大切な役割です。とはいえ、「わかる」ことはそう簡単ではありません。倫理を問われる場面もあります。

授業では、これらについてレクチャーするだけでなく、自分の問いを立てて、何をどう社会に伝えるのかを多角的に考える力を養います。

12月にゲスト(実際に取材を受けてきた人)に来ていただき、インタビューして皆さんに書いてもらう予定です。そこに向けて、各自で調べて、発表してもらいます。

倫理および言論表現の自由については、折々のニュースに触れるなかでと、1月に、話す予定です。

## 教科書

特にありません。必要に応じて資料配布します。

## 参考書

『〈犯罪被害者〉が報道を変える』河原理子・高橋シズエ編、2005年、岩波書店

『〈オンナ・コドモ〉のジャーナリズム ケアの倫理とともに』林香里、2011年、岩波書店

## 授業計画

第1週 ガイダンス

10月 「事実と真実」「寄り添うとは?」「ハンセン病検証会議報告」

11月 リサーチと発表

12月 インタビューへの準備：問いを立てる、犯罪被害者について知る

▷インタビュー ▷そのわかち合い ▷記事執筆に向けて

1月 記事講評、「戦時下の言論」「SNS時代の表現」

第13週 まとめ

以上は大まかな予定で、変更の可能性があります。詳しくは第1週に。



## メディア・ジャーナリズム論講義Ⅲ

(ドキュメンタリーを見て考える「ニッポンの問題」)

丸山 拓 講師

(TBS)

A1A2 ターム 木曜5限(2単位) 時間割コード: 5A101003

### 授業の目標・概要

TBSテレビの報道局で、社会部デスク、外信部デスク、「報道特集」「NEWS 23」のディレクター、ドキュメンタリー番組「報道の魂」のプロデューサーを務めた講師が、自分の取材・番組制作体験をもとに、時にはゲストを交えながら、冤罪事件、戦争の記憶、原発、災害報道など様々な問題を皆さんと議論し、メディアとジャーナリズムの課題について考えていきます。

### 教科書

特にありません

### 参考書

必要に応じて授業内で紹介します

### 授業計画

- 第1週 「直感を信じろ！権威を疑え！」
- 第2週 「原発は安全なのか？」
- 第3週 「他人が行かない国へ行こう」
- 第4週 「戦争の記憶は語り継がれてゆくのか？」
- 第5週 「災害報道に最も必要なこと」
- 第6週 「作品には自分の意志が反映する！」
- 第7週 「ラジオの可能性～音だけで何が出来るか」
- 第8週 「天気予報が変わる～命を守る予報」
- 第9週 「キャスターは何を見て、何を伝えたか」
- 第10週 「パンデミック報道で問われること」
- 第11週 「取材対象者と、どう向き合うか？」
- 第12週 「どんなジャーナリスト(自分)を目指すのか？」
- 第13週 「最後だから色々な事を話そう」

\*ゲスト等により日程を変更する可能性があります

# メディア・ジャーナリズム論実験実習Ⅹ

(ドキュメンタリー制作入門)

日笠 昭彦 講師

(元日本テレビ「NNNドキュメント」プロデューサー・L L C創造ノ森 代表)

A1A2 ターム 木曜6限(4単位) 時間割コード: 5A104010

## 授業の目標・概要

この授業は、福武ラーニングスタジオ3(福武ホール B2階)にて「対面」で実施。

3~5人でチームを編成してリサーチ~撮影~編集を繰り返しながら

20分程度のドキュメンタリー作品を制作し、映像ジャーナリズムを体感します。

授業ではTVプロデューサーである講師が制作上の助言をしますが、

取材交渉や撮影・編集は主に大学構外で授業外の時間に行うことになります。

その時間を確保できない人は単位の取得が難しいと考えてください。

なお、完成作品は各映像コンクールに出品し客観的な評価を得ます。

\*2年連続で「地方の時代 映像祭」を受賞

## 教科書

特になし

\*講師が制作に携わった番組やニュース企画、過去3年間の学生の作品 等

## 参考書

「映像メディアのプロになる！」奥村健太・藤本貴之著/藤原道夫監修(河出書房新社)

「書く力~私たちはこうして文章を磨いた~」池上彰・竹内政明 著(朝日新聞出版)

## 授業計画

- 10/6 ガイダンス「実習授業の概要と進め方」~講義「ドキュメンタリーの作法①」◇企画・リサーチ
- 10/13 メディアスタジオにて撮影機材のトレーニングワークショップ
- 10/20 受講者による企画案の発表~投票による企画の選考
- 10/27 班分け~班ごとに構成要素の洗い出し、役割と制作スケジュールの共有
- \*11/3と11/10は休講⇒この間にリサーチを進め取材対象者への許諾を進める
- 11/17 班ごとに番組全体の構想を発表
- 11/24 講義「ドキュメンタリーの作法②」◇構成・撮影
- 12/1 講義「ドキュメンタリーの作法③」◇編集・仕上げ
- 12/8 リサーチ~撮影~構成を繰り返し、映像を記録していく
- 12/15 講師による中間試写(A班、B班)~追加取材~再構成
- 12/22 講師による中間試写(C班、D班)~追加取材~再構成
- 1/5 講師による最終試写(A班、B班)~完成に向けて精査
- 1/12 講師による最終試写(C班、D班)~完成に向けて精査
- 1/19 全員による完成試写 ☆作品の上映と講評~制作実習のふりかえり

## メディア・ジャーナリズム論講義Ⅳ

(体験的・実践的ジャーナリズム入門)

福永 宏 講師

(元・読売新聞社/元・東洋経済新報社・情報学環同窓会副会長) 他

A1 ターム 金曜 5・6 限 (2 単位) 時間割コード: 5A101004

### 授業の目標・概要

東京大学新聞研究所・社会情報研究所・情報学環教育部同窓会は教育部の出身者による講義を本年度も実施する。現在、新聞、放送、雑誌などのいわゆる「既成メディア」は、知識人、種々の政治勢力、統治権力、一般大衆などさまざまな方面から批判を受けている。これはわが国のみならず、米国でもみられるように世界的な現象といえる。さらに、経済的にもネットメディアに追い上げられて部数、視聴率、広告収入などの経済的面でかつてない厳しい状況に直面しており、こうした傾向は今後、さらに強まると考えられる。そこで本講義では、ネットメディアを含むジャーナリズムやメディアの現場で活動している本教育部出身者が自らの直接的な体験を踏まえ、現在の言論界の状況やジャーナリズムが置かれている実情を紹介・解説し、受講者と討論する。将来、メディアやジャーナリズム分野へ進もうと考えている者はもちろん、他分野への就職を考えている研究生にとっても、「現在」を理解するために有益な体験となるであろう。

### 教科書

なし

### 参考書

『石橋湛山評論集』石橋湛山著／岩波文庫

『「ポスト真実」にどう向き合うか』八巻和彦編著／成文堂

『Journalism 2021年9月号 「報道の自由」って何ですか』朝日新聞社

### 授業計画

- |     |           |              |                        |
|-----|-----------|--------------|------------------------|
| 第1回 | 10月7日(金)  | 福永宏          | 読売新聞OB・東洋経済新報社OB       |
| 第2回 | 10月14日(金) | 土生修一         | 読売新聞OB・前日本記者クラブ専務理事    |
| 第3回 | 10月21日(金) | 芹川洋一         | 日本経済新聞論説フェロー・元日経新聞論説主幹 |
| 第4回 | 10月28日(金) | 高木徹(オンライン授業) | NHKチーフ・プロデューサー         |
| 第5回 | 11月4日(金)  | 森下詩子         | フリーランス映画配給者            |
| 第6回 | 11月11日(金) | 糸永正行         | 日刊工業新聞記者               |
| 第7回 | 11月25日(金) | 水谷典雄         | 博報堂OB・作家               |